令和５年度さいたま市立与野南中学校　学校だより

南風（みなみかぜ）

第６号
令和５年８月２９日発行
http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　心身共に健康な生徒

《始業式を迎えて》

小学校以来５６回目の夏休みでした。多用な毎日ではありましたが、私自身も２学期への心構えができました。与野南中学校教職員も元気よく長丁場の活動に立ち向かいます。合唱コンクールで美しい歌声をお届けできるでしょう。新人戦をはじめとする大会、コンクールなどは新たな組織、メンバーのデビューです。教育委員会に関わる企画や学習のあり方に関係する研究発表も控えています。今学期もよろしく応援ください。

夏休み中にまとめた考え～本校校長５年目にして

校長　吉原誠士

学校では生徒たちに知識や技能を獲得させ、それらを活用して考えたり表現したりといった活動を行い将来に備えさせます。昨今は各人に１台ずつ支給されたタブレット端末の活用が求められています。しかし、与野南中学校はパソコンの使い方を教える専門学校ではありません。私は学びを通して「脳を鍛える」ことこそが次世代にまで持続する学校の役割であると理解しています。つまり、端末は場に応じて「効果的」に使用するものであり、記憶や思考のすべてを代替させるわけにはいかないと考えます。

適切な要約をしながら情報を頭に入れ、思考に役立てる訓練は困難も多く努力が求められます。しかし、だからと言って生成ＡＩに頼り切るのはいかがなものでしょうか。ＰＣを前にして自分の「脳」を使うことを忘れることは、ヒトのヒトたる理由を失いかねない愚行です。そもそもこのような便利なシロモノを発明し普及させたのも、優れた発想をするヒトの「脳」が存在したからであることを思い知って欲しいものです。「努力こそがひらめきを生む」というエジソンの考え方は現代でも通用します。

自然界では近海で獲れる魚の種類、生活圏で見られる昆虫といった生物相が明らかに変わりつつあります。身の回りの生活に関わるイノベーションは、少しでもニュースから目を離せば理解が追い付かなくなります。身の回りの様々な状況が変化するスピードは確実にアップしていきます。このことが学校での教育に大きな影響を及ぼそうとしています。世の中の変化を学校が捉え、教えきれない状況が生じることが予測されるのです。そこで、子どもたちの「学び方」について考え直す必要が生じてきました。予測不能な未来に備えて、子どもたちの「学び方」についての関心と能力を高めようということです。

思考三昧だった「脳」を休めるためもあって、夏の終わりに村治佳織（むらじかおり）さんのコンサートに行きました。演目の「四季」は原曲のヴァイオリン独奏部分をギターで奏でる世界初公開の編曲版です。この挑戦にはデビュー３０周年を迎え新たな一歩を踏み出そうという奏者の意気込みが感じられます。「アランフェス協奏曲」はご本人が何度も演奏してきたクラシックギターの定番、自信曲です。「新たなチャレンジを忘れない」「残すべきよきものを残し、弾き続ける」、演奏後に意図をはっきりと、格好良く語っていました。私も校長としてもそのような姿勢を見せるべく努力を続ける決心を新たにしましょう。